

報告日 令和7年8月4日					
報告回次 1日目					
令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書					
地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。					
記					
1. 申請団体情報					
1-1. 申請団体					
団体名	佐賀県			代表者名	佐賀県知事 山口祥義
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	農林水産部農政企画課	連絡先電話番号	0952-25-7257
担当者役職	企画主幹	担当者氏名	円城寺雄介	連絡先E-mail	
住所	840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号				
1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）					
団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	
1-3. 支援を求める内容					
支援方法	具体的課題への支援	事業名	農林水産部DX推進事業		
概要	地中にある農業用水管について、漏水や老朽化を把握することは困難であり、多額の費用と人手がかかっている。農業用水管の事例は世界でもまだないが、類似と思われる上水道事業において、人工衛星データ活用等の先進取組があることから、その先行事例を参考にしして対応をするための助言や講演等を行っていただきたい。				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 農林水産業				
2. 地域情報化アドバイザー派遣実績					
2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無			事前打合せ	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年7月24日	支援・助言&講演(実地)	9時30分	17時30分	60
				活動時間（分）	420
2-2. 派遣場所	会場名	佐賀県庁 大会議室		最寄駅	佐賀駅（JR）
	所在地	佐賀市城内一丁目1番59号		最寄駅からの交通手段	公用車等
3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望					
支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。					
アドバイザー	岡田 俊樹				
評価	大変良い				
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	・講演については、わかりやすい資料で、かつアドバイザーが豊田市で取り組んだ事例を具体的に話をしていただき、参加者の理解や共感が高かったと感じた。 ・助言指導についても、上水道の事例を基に具体的な話をしていただき、非常に良かった。 ・一方で、当方の依頼内容が、上水道での知見をそのまま使えるものではなく、全国的にも事例がまだ極めて少ない農業用水管での応用であり、この場ですぐに対応や結論が出せる内容ものではなく困難な状況であったが、それでも真摯に、かつ具体的な助言指導をいただくことができたため。				
アドバイザーへの要望事項	とくになし				
4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果					
4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	108人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	103	0	5	0
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果					
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	農業用水管の老朽化が進み漏水が発生。農業用水管は地中にあるため、把握が困難で多額の費用と人手がかかり、調査などもできていない現状である。水資源は近年ますます貴重になっており、この課題を解決するために、漏水箇所の把握や老朽化の程度を、GIS等により可視化して把握できるようなシステムの実現可能性を検討しているところである。あわせて、佐賀県職員や県内市町村等の職員向けに、デジタル関係の最新情報を紹介する講演を行い、デジタル活用全体の機運を醸成したいところである。				
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	現状では、通報やパトロール等で目視確認するか、水管にセンサー等を設置するしか方法はなく、費用対効果の面で大きな課題がある。そこで、上水道事業での実績がある人工衛星データ等の活用が適用できるか、まずは実現可能性の検討を行いたい。 検討については、令和7年度末までを目標とし、成果効果が確認され、費用対効果のうえからも実現可能であれば、令和8年4月以降で事業化を検討したい。				

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的に記入下さい)	・豊田市でのAIや人工衛星を用いた取組について講演や助言指導をいただいた。 ・AIをどのように使用するか、人工衛星のどういう機能に注目するかなど、実際に豊田市で取組を進めた事業について、成果だけでなく、課題なども紹介いただいた。 ・さらに、上下水道を取り巻く現状や、国の最新の取組み状況など、情報共有をいただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的に記入下さい)	・人工衛星やAIを用いた、上水道の調査効率化は、アドバイザーが豊田市での取組み実績があり、全国の自治体へ広がっている。しかし、今回依頼した農業用水管は根拠法や状況が異なることから難しいものであったが、現地や個別事情を確認しながら、どこまで、何ができるかなど、具体的な意見交換を行うことで今後の検討が進められるような助言指導をいただいた。 ・講演については、AIや人工衛星をインフラ老朽化という課題に、具体的にどのように活用したのかを話していただき、参加した職員のDX機運を高めることができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
	AIや人工衛星の活用は上水道で取組みが始まったところであり、農業用水管での応用は事例が極めて少なく、どのような取組みができるかを検討しているところであり、具体的な成果物まだはできていない。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的に記入ください)	・AIや人工衛星の活用は上水道で取組みが始まったところであり、農業用水管での応用は事例が極めて少なく、どのような取組みができるかを検討しているところであり、今回のアドバイザー派遣を受けて、関係者とどのように取り組むかを議論していきたい。 ・議論を進めていく中で、再度、アドバイザーへ助言指導をいただきたいと考えている。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果について記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由を記入下さい。 ・講演は、農業用水管に限らず幅広くDX活用という視点でひとりでも多くの職員へ聴いてもらいたいことから、全庁を所管する政策部の主催での、AIや人工衛星活用を進めるDXセミナーのなかでの外部講演という位置づけしたことからアンケート等は実施しなかった。なお、当初は50名程度の参加を見込んでいたが、100名を超える参加という成果を得られた。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	③現段階では課題・問題が残っているため未定
	農業用水管でAIや人工衛星をどのように活用するか、今回の派遣を受けて、検討をすすめていくため。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	最終目標としては、農業用水管の維持ができることでの、佐賀県における農業という産業の維持、我が国の食料安全保障の確保を通じて、地域住民のみならず、日本国民へメリットのあるものとなることが期待できる。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
掲載許可	☐ 掲載可	
なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください		
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子		
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。		



7月24日 事前打ち合わせ、職員向けの講演(対面52名、Web51名の計103名が参加)
終了後、市町村が主体である上下水道事業を県として所管する部署職員などから熱心な質問が寄せられた。